

2018年度第1回環境科学研究所談話会

2018年6月20日(水)

「砂粒は礫からどのように生まれて運ばれていくのか  
—河川～浅海域における砂礫の生産—運搬過程と地形発達，社会とのかかわり—」  
宇津川喬子（地球環境科学部地理学科・助教）

0. 自己紹介

- ・1989年生まれ 東京都多摩 NT 出身
- ・2017年3月 首都大学東京大学院 博士後期課程修了 博士(理学)
- ・専門：堆積学(現行堆積過程)，自然地理学，地形学，地質学

1. 研究のコンセプト(≒タイトル)

2. 研究事例①

- ・河川や海浜の砂礫にはたらく破碎・摩耗作用の解明
- ・渡良瀬川水系
- ・砂礫の「岩種」「粒径」「形状(円磨度)」の3つの関係
- ・粒子形状に関する研究史の整理と分析手法の構築

3. 研究事例②

- ・ダムが河川の砂礫の生産-運搬作用に与える影響の評価
- ・天竜川水系(遠州灘)

4. これからの宇津川

- ・現在から過去へ(段丘構成礫の特徴と運搬-堆積過程の解明)
- ・中部山岳地域の土石流災害
- ・羽村市史編さん事業 ※2019年資料編刊行予定
- ・初等～中等教育における地理・地学の実践的教育の展開への貢献